



芭蕉翁遠志
為之塚

全



文塚市



伊勢古津の女の四三三
 美津若き如月通り文塚と建は
 寛保の五の山や一一福の四四あり
 寺の言碑名は世に傳へる人は
 万の六十二日に縁り不傳り也とん
 古地の名はもていふの處に感一

今此子向はなせむじしを居て
湖あり古塔あり漢東北碑の跡を
こゝ免國く前々徳とるゝと
今為徳とありたつと教と思ふて
今多縁とありつる河ふいぬ向塔
ひひ尾多縁とあり、と不指と折子
河、^(美)後家、一紙の書録を埋
城を、呼れなす、これ、院内、

曹洞の禪林、四壁、物種、法用
おのゝ世の塵を、帰、は、
か、これ、祇園、王、お、
た、む、お、と、
お、う、う、教、お、
お、た、へ、う、東、お、
何、義、と、お、
お、呼、お、
お、呼、お、

雨と山の麓との合はるるに怪詭と山の
 窟と鳴るる声とまはるるにわづらひ
 活のふゆのまはるるにわづらひ
 ありとて雲魂のまはるるにわづらひ
 けほくは守りてまはるるにわづらひ
 月のゆり道に厚志の華はけとて
 ありとてまはるるにわづらひ
 ありとてまはるるにわづらひ

るる好



碑前

一人一石を千載を河を

るに建中の子を

はら

二日坊
里同

ふはれよ白しきくふはれ

跡

小まきと花を居てふ十年 文器

昔はろそ水碓を築の神つて 牛枕

馬を色くぬ組のを送 西花

月を信年も々更程をみたり 悦奉

よふをきくある教の商人 芦風

いれをのし中まをるはつて月の月 浩笑

ぬきて湯衣^{ユカタ}をうたはれれを 緝柳

新んがけを降く鳥をくがふし 雪江

鶯をのそをうたはれり音 其葉

ありくよを紀の終れ終れ^(西ノ風) 女

向の西行をふりおきくを 花徑

梅千と首命なる硯 書 蘭紫

梅舟ゆきまを様乃見晴 川車

手拭く忘る馬を水原 三桃

ゆき人掃田の首白きり 凡五

携くく野水清今ふ大気 龍文

印庭掃く移る月の光 風和

とくく城下北階を 布及

甘くゆる煙る船水飯時 可笑

一巻しと解く様く神を打つ 多語

し 新法集おは清布かつも 只丸

胡葱乃香熱からくも 素竹

層 凡之れハせまひる 己有

四みりれ日癖と喜子 艸解

大和もふまは山 水色

あまの推のきき 其柙

娘乃果報待つたごん 雨橋

ぬきうにきくおの裁今を

扇士

河をんて扇を猫もを金飯

停車

影跡しあいにさくはま月

芦洲

ゆきまはるはなをなす

扇雪

可なりさうらふ扇おもて

三江

け山はれ葉もも 栗木

五溪

今晴はたさし遠おそく月

木淵

そよよあまの物氣さく

鼠十

糸糸く上の温鈍をほく

壽山

昔清如か屋に今如お屋

雨舟

本を秋の弓おをたれり

炉扇

降るまは思ひの編笠

如今

紋まもぬり井の字か下ん

時習

はるきさうのさきおき

五絵

玉柵う具を 襦きうを切

鯨子

折戸の鳴子鹿も中の馴

東湖

空をみよとてまは入るる新月の影 麥推
 たくみれあはぬ豆膚の埃か蔵 鳩律
 ちこそころ天窓みよまなやわら 射石
 揺るはけりし乃漱さげそ切糸 飛泉
 古池もまろくたもれたすのむ 芦夕
 風舞の来もたうれまろ柳 楨夕

芭蕉翁半百年譚 香語

和曲聲罷半百年 文墓蕭索鎖寒煙
 奉今有聳門人耳 葉落芭蕉彈沒絃

以夫

公羽也
 詞藻妙不巧
 風流遠流芳

惟時正當半百年之遠譚詞藻之末
 葉追慕蕉翁奇言感物之恩就當山

假手山野拈出一片爛枯柴以聊
伸心法供養

嘖

物外獨騎千里象
芳名不朽舊山川

答世 山主 演宗州

拈香禮拜

け	の	向	一	中	妙	也	知	く	を	妙	時	多	法	笑
落	毛	妙	也	と	妙	也	と	妙	也	と	妙	也	と	妙
今	も	も	も	も	も	も	も	も	も	も	も	も	も	も
又	塚	也	昔	如	子	も	よ	く	も	人	三	桃	東	潮
文	塚	も	又	如	妙	也	妙	也	妙	也	律	師	東	潮
又	何	の	妙	也	妙	也	妙	也	妙	也	南	舟	南	舟
と	妙	也	妙	也	妙	也	妙	也	妙	也	花	徑	花	徑

あやうき ねる 珠ねあしきりふ
ふの縁や たんごかお雪の竹
かききよも ねるあまのせきまのうか
文の縁うたも ねるは経法久
志くゆや ねるしのかきまの言
めくうあまの月も ねるあまの時あま
風や せきんまのねるあまのうき
ふあまや ねるうきあまのうき

素竹
楨夕
大 麥推
文器
緝柳
壽山
女 糸
布及

一雪成をいへ 備へ 備へ 芭蕉 川車

投子一碗の大煙を蕉門の風流
それはいささかの懐けりよ勢て

雪の結や 傷もももも 雪の色
ふの縁法久のあまの雪の月
あまの縁法久のあまの雪の月
古地や 野もももも 雪の色
ねるうきあまのうきあまのうき

五经
雪江
時習
鳥語
鼠十
芦 枇 風

山をよみとて塚やあまの山は極楽 両花

その山は深き山は深き山は深き山は深き 停車

くつむしとて山は深き山は深き山は深き 加扇

誰の山は深き山は深き山は深き山は深き 蜻蛉

蛙とて山は深き山は深き山は深き山は深き 射石

山は深き山は深き山は深き山は深き 飛泉

山は深き山は深き山は深き山は深き 已有

山は深き山は深き山は深き山は深き 扇雪

谷を移りて帰る小春やあまの山 凡五

山を移りて帰る小春やあまの山 三江

山を移りて帰る小春やあまの山 扇士

あまの山の流りを指し月夜の秋葉と
ささやきとて山は深き山は深き山は深き
山は深き山は深き山は深き山は深き

一 山は深き山は深き山は深き山は深き 木淵

山は深き山は深き山は深き山は深き 葎繁

山は深き山は深き山は深き山は深き 悦希

山は深き山は深き山は深き山は深き 芦洲

其葉
 左文
 五溪
 炒解
 水色
 鯨子
 凡和
 雨橋
 師の影を惹きよるは雨の
 塚より人々の言はるるは
 茶は也也香も物昔後昔
 雨の影を惹きよるは雨の
 塚より人々の言はるるは

其柙
 只丸
 可笑
 水向う吹く風をよむ
 ながれ人々もよむ
 百年後を向はる

十一日於福満寺(是日)

芦夕和尙

二日坊
 木淵
 意一筆はやりと旅の花書
 心もみこしはく思もつこく

以下畧

七人いふは湖の色燕忌一書 儂行

牛乳オウの匂は銀匠の場日とくそ 杜吾

月も月もあつはり蓮井も他の
中も酒よりうき色花（花）を
三石は金言よりあらまきり
は遠り俳句をばきき

餅乃ないわ春はさへ一借表はり
二り付

當國到來

西の松野中今と夏は松京名 俣山

根より花や小まれば玉糸同 帆十

堀りつる音やかまへん古成中山田 鬼士

ふゆやうゆのまふれ一くきり同 畔古

御宿をまほのまを（記）とふふ
おれりお祖をさふふ

かやめくふ林下さるま枯野四日市 五之

このふくつさ婦つるよ錦一扣久居桃溪

何をかく年事くや同の枯尾系同鼓嵐

こゝ久塔よりよりを遠くよりよ
人この懐ゆを其事の作らとを

歳回リ破くう句わーく終う如山田杜菱

あ十年迄のありう記十折同素道

言ゆ冬扇のそ折も折
きれそこれ何う事

くさくさ折ぬ扇や扇も小六月葉名枝山

塚乃ふのみ所やあ〜初折同八調

つちよちよあ捨ふ捨や何る月川崎梅路

婦りかひりあ十年人〜くねん同曾夫

あさふあね跡人〜りききあゆあ同入楚

又ぬきあ塚のちむろき〜小生同秋至

母れき〜あ〜運る事時あ同州司

諸国文通

久塚乃りみみ無じし和浦千鳥 美濃 盧元坊

まのくさや久塚より玉を散 同 琴左

まのくさの結も何よりあやう 伊賀 三川

塚よりまのくさの結も何よりあやう 江戸 柵居

筆を結まのくさの結も何よりあやう 伊賀 竹人

何よりまのくさの結も何よりあやう 美濃 乙伍

塚よりまのくさの結も何よりあやう 同 左橋

塚よりまのくさの結も何よりあやう 同 有帆

表時よりやまのくさの結も何よりあやう 大坂 梅従

神のまのくさの結も何よりあやう 近江 菊壽

まのくさの結も何よりあやう 京 沽耳

あやうの結も何よりあやう 尾張 竹夜

まのくさの結も何よりあやう 同 丁牧

久の塚よりあやうの結も何よりあやう 大和 古山

文の塚よりあやうの結も何よりあやう 同 千代

久のくさの結も何よりあやう 同 史別

掃き尽す(廿)の雨 近江 角上

草の根を(廿)の雨 尾張 固舟

御膳の掃き尽す(廿)の雨 尾張 支葉

おのゝ(廿)の雨 大坂 石川

おのゝ(廿)の雨 師冬

御書おのゝ(廿)の雨 攪十

月(廿)の雨 徳行

おのゝ(廿)の雨 杜玄

イシフニ

石碑の(廿)の雨 一推

おのゝ(廿)の雨 半意

鳥を(廿)の雨 露秀

文壇の(廿)の雨 史刺

おのゝ(廿)の雨 為六

おのゝ(廿)の雨 東李

おのゝ(廿)の雨 吐雲

おのゝ(廿)の雨 吐雲

前也塔世好もよそを承けり
路の流をほろくすけ風のまき

尾張 麥士
加賀 希固

竹林 跋

芭蕉翁没後五十霜矣雅誼諧
等閑興已_レ被_レ一世_レ人_レ知_レ愛_レ而追
慕遺凡_レ竈賞吟筆未_レ斗_レ予嘗_レ無
有_レ又_レ干_レ北_レ欽_レ望_レ凡_レ骨_レ其_レ展_レ紙_レ能_レ
自_レ號_レ二_レ日_レ傍_レ一_レ日_レ憶_レ昔_レ來_レ而_レ示
余_レ文_レ塚_レ集_レ与_レ進_レ履_レ冥_レ鬼_レ之_レ音_レ也
且_レ讀_レ後_レ之_レ尾_レ嗚_レ呼_レ人_レ之_レ心_レ於_レ更_レ

Out

十一

則必動於情而後興於嘆嘆不發於
 心不顯於形物無同氣在言與聲吐
 古德之句而把定之氣為身之變誤的
 自初之用心復何出也撰以細者
 見乎無意之意以爲其合於情
 者幾人乎今時之世道若効其情
 自則之伎能少以論大者若二百
 坊之中心神為之跋_跋 千時之徒

龍舍 冬 亥 初冬

富洞津乙浦教人蘆夕叟



...

...

延享元甲子十月日

京寺町二條

橋屋治兵衛板

昭和十四年二月寫

俊定藏



